

(別記)

山口県水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本県は、耕地面積^{※1}のうち水田面積の比率が8割と高く、中山間地域が約7割で条件不利地が多いこと、販売農家^{※2}に占める65歳以上の割合が81.5%（全国66.5%）、75歳以上が40.5%（全国29.8%）と高齢化が進んでいることが特徴である。

耕地面積の減少が進む中、本県農業の基盤である水田を維持するためには、地域の中核となる経営体の育成及び農地集積による効率利用に加え、需要に応じた主食用米の生産拡大、ならびに、加工用米や飼料用米、麦・大豆等の戦略作物、高収益な園芸作物による経営改善を図り、水田をフル活用していくことが重要である。

※1：耕地及び作付面積統計（農林水産省統計部）

※2：農業構造動態調査（農林水産省統計部）

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

ア) 家庭用

地産・地消を基本に、山口米のラインナップ拡充やストーリー性・特色のある商品づくりを推進するとともに、県内量販店をはじめ、直売・インターネット等の多様な販路の創出を行う。

また、地域における適地適作の実践及び食味・外観等の品質向上に向けた栽培管理、県域での山口米の認知度向上に向けた宣伝・販売活動を実施する。

イ) 中食・外食用

結びつき強化による長期的な需要の確保に向け、実需者の求める品種・品質に応じた作付誘導を推進するとともに、共同乾燥調製施設を活用した均一調整、山口米ターミナル^{*}を活用した安定的な品質管理・出荷を行う。

また、需要量への対応と流通ロット確保のため、近隣県と連携した販売企画や提案を行う等、供給体制の構築・強化を図る。

※：主食用米に係る品質向上物流合理化施設

ウ) 酒造好適米

県内需要量に応じた作付及び契約栽培を推進するとともに、品質向上に向けた栽培管理体系を確立し、高品質・安定的な生産と安定供給を図る。

(3) 非主食用米

ア) 加工用米

県内酒造組合等から酒造原料用として需要のある品種（日本晴、中生新千本、やまだわら）について、担い手と実需者等の契約栽培を推進し、収量確保に向けた栽培管理と需要に応じた生産拡大による長期的な需要枠の確保を行う。

イ) 米粉用米

県パン工業組合や直売所、学校給食等の需要に応じた生産・供給が行える体制

づくりに努める。

ウ) 飼料用米・WCS用稲

飼料用米については、県内畜産農家の需要に応えるため、県知事特認品種の肥培管理の指導と多収品種の作付拡大による単収向上対策を、担い手を中心に実施する。WCS用稲は、直播栽培等の推進による生産コストの低減とともに、耕種農家と畜産農家の連携強化を進め、生産と利用の維持・拡大を図る。

エ) 新市場開拓用米

新規需要米のうち、飼料用・米粉用を除く、国内の主食用米の需給状況に影響を与えないと判断される用途に供される米穀について、将来を見据え、農業者の所得向上のため、内外の米の新市場の開拓を図る。

(4) 飼料作物

収穫調製作業を受託するコントラクターの育成と機械の共同利用による効率的な作業によりコスト削減を推進し、粗飼料自給率の向上や耕畜連携による飼料作物の生産拡大を図る。

(5) 麦・大豆

需要者（豆腐商工組合・味噌加工業者・パン工業組合・学校給食会等）から求められる原料用の麦・大豆の生産拡大に取り組む。

生産拡大に当たっては、集落営農法人等の担い手を中心に、機械整備等による効率化・コスト低減を推進するとともに、栽培管理技術の平準化を図る等、高品質・安定生産に向けた取組を強化する。

また、区画整理や排水対策による水田高機能化の促進により、農地の高度利用の取組を強化する。

(6) 園芸作物等

ア) 土地利用型野菜（たまねぎ・キャベツ・ばれいしょ・にんじん）

機械・施設等の整備を支援し、効率的な生産・出荷体制を構築するとともに、集落営農法人等の担い手を中心に作付拡大し、経営の複合化を推進する。

イ) 集約型野菜（イチゴ、トマト等）

新規就農者の確保に向けた県内外でのガイダンス等のPR活動に加え、県域・地域での研修体制と地域への受入れ体制の強化を支援する。

また、主要産地が連携し、需要先を見据えた生産・出荷計画を作成するとともに、集出荷拠点施設の整備を進め、効率的な生産・流通体制を構築する。

ウ) 地域の特色のあるオリジナル品目（かぼちゃ、はなっこりー、リンドウ等）

地域の特性を活かした品目や県オリジナル品目については、市場や直売所等のニーズに応えた作付誘導を行うとともに、女性・高齢者をはじめとした多様な担い手への推進による生産拡大を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の 作付面積 (ha)	平成 30 年度の 作付予定面積 (ha)	平成 31 年度の 作付目標面積 (ha)	平成 32 年度の 作付目標面積 (ha)	
主食用米	19,334	20,645	20,305	19,946	
飼料用米	836	886	900	925	
米粉用米	5.1	8.1	8.1	8.1	
新市場開拓用米	0.0	0.5	2.8	7.0	
WCS用稲	313	313	316	319	
加工用米	996	1,011	1,028	1,111	
麦	1,763	1,867	1,953	1,998	
大豆	842	865	904	943	
飼料作物	1,333	1,354	1,375	1,394	
そば	42.3	44.1	44.6	45.4	
野菜・花き	たまねぎ	88.4	93.4	97.1	100.8
	キャベツ	100.8	104.3	108.1	111.1
	ばれいしょ	39.5	40.8	41.9	43.8
	かぼちゃ	87.0	86.1	89.2	91.1
	にんじん	12.3	13.0	13.5	14.2
	はなっこりー	16.3	18.3	18.7	19.3
	イチゴ	32.9	34.4	35.5	36.8
	トマト	37.4	38.0	39.3	40.8
	ユリ	0.5	0.5	0.5	0.5
	リンドウ	1.9	2.1	2.2	2.4

※1：作付面積は、経営所得安定対策に係る作付動向調査

※2：飼料作物、野菜・花きは、各地域農業再生協議会の合計面積

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目 標	現状値	目標値
				(29 年度)	(32 年度)
1-1 1-2	たまねぎ、 キャベツ、 ばれいしょ、 かぼちゃ、 にんじん、 はなっこりー	県重点推進野菜助成	取組面積	247.3ha	279.0ha
2	加工用米、 飼料用米、 米粉用米、 新市場開拓用米	用途限定米穀助成	取組面積 (取組割合)	1798.5ha (72.0%)	1875.0ha (75.0%)

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり